

---

# 第四章

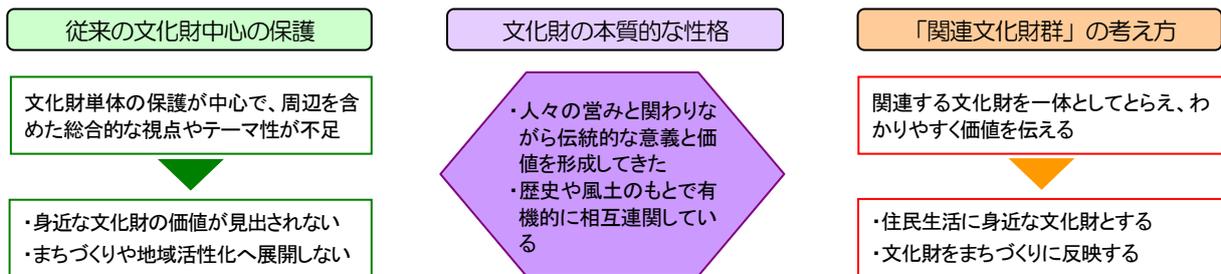
## 関連文化財群／歴史文化保存活用区域とは

# (1) 関連文化財群の考え方

## 1) 関連文化財群とは何か

文化財は、人々の営みや行為と関わりながら伝統的な意義と価値を形成してきたものであり、歴史や風土と有機的につながっている側面を持っている。しかし、これまでは文化財単体の保護が中心となり、周辺を含めた面的まとまりの視点やテーマ性をもった相互関連の視点が不足していたため、本来の価値が見出されずに敬遠されたり、まちづくりや地域活性化につながらなかったりという面があった。文化財を社会全体として継承していくためには、人々に地域の歴史や文化を伝えるものとしての文化財の役割を取り戻し、魅力的な形でわかりやすくその価値を伝えていくことが必要である。

本構想・計画では、有形・無形、指定・未指定を問わず、歴史的関連性や地域のつながりなどに基づいた文化遺産の集合体を拾い出し、「関連文化財群」として一体的な価値を見出しつつ、総合的に保存・活用を図っていくものとする。とりわけ、文化財保護法で保護されている指定文化財のみではなく、それ以外の関連性のある文化遺産も総合的にとらえて一体の価値を認めることで、文化遺産を住民生活に身近なものにすること、文化遺産をまちづくりにも反映させることが従来の施策との違いとして強調される。



## 歴史文化基本構想と関連文化財群等の関係例



## 2) 本構想・計画における関連文化財群の考え方

本構想・計画では文化遺産を新たな視点でとらえなおし、南城市の文化遺産を「歴史遺産」「環境遺産」「民俗遺産」の3つの要素から構成されるものとする。

### 環境遺産

南城市を特徴づける湧水、海岸や広大なイノーの海、琉球石灰岩などの自然環境要素であり、またグスクや御嶽、伝統集落などの空間的特徴を育てた。

### 歴史遺産

南城市の時代ごとの変化を反映する要素であり、グスク、御嶽、歴史的人物に由来する屋敷跡や墓など、歴史的な出来事に伴って文化財的な価値を育てた。

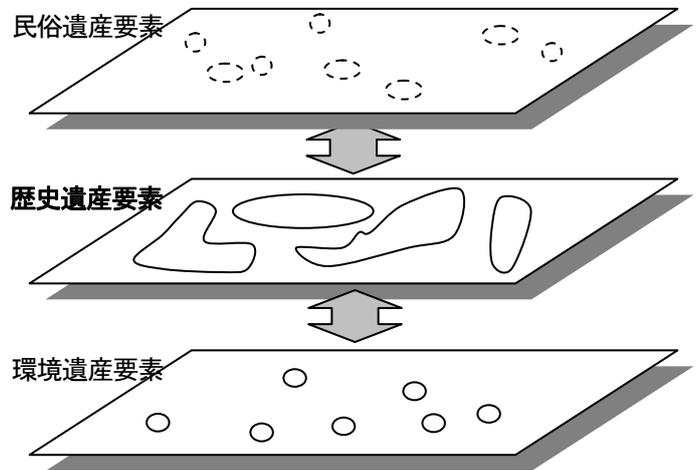
### 民俗遺産

南城市の歴史や伝統の中で長きにわたって育まれた人々の活動や文化心性を体現する要素であり、祭祀や伝統芸能、生業など無形の価値を育てた。

南城市にあるグスクや御嶽、伝統集落、樋川・井戸、海岸地形、植物群落などの空間的特徴（環境要素）や、人々によって営まれる祭祀や芸能、生業などの活動（民俗要素）は、沖縄文化の基層となる資源としてとらえられる。一方、数々の歴史的出来事（歴史要素）は、県内の他地域に例がみられない、南城市独自の資源として意義づけられる。それぞれは単独でも価値を持つが、3つの要素が重層化することで、時間・空間・精神を結んだ新たな価値が発見できる。

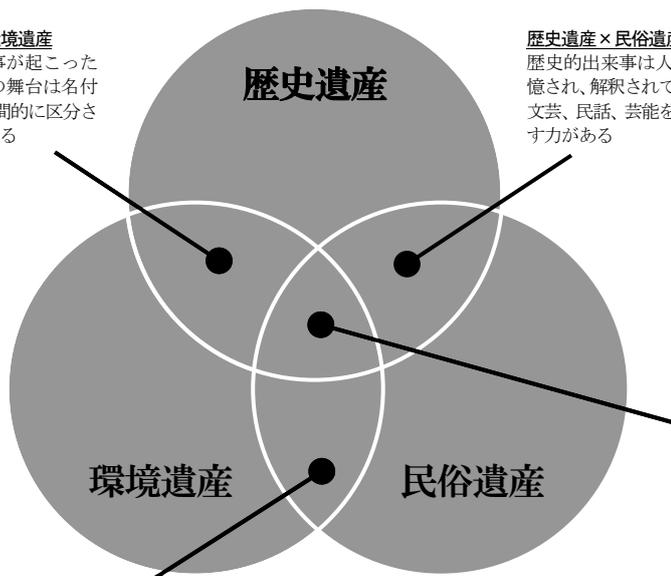
特に本構想・計画では「歴史遺産」の要素を中心におくことで、「琉球発祥の地・南城」と結びつく関連文化財群を設定していく。

図 関連文化財群の重層構造イメージ



**歴史遺産×環境遺産**  
歴史的出来事が起こった場所や説話の舞台は名付けがされ、空間的に区分される傾向にある

**歴史遺産×民俗遺産**  
歴史的出来事は人々に記憶され、解釈されて様々な文芸、民話、芸能を生み出す力がある

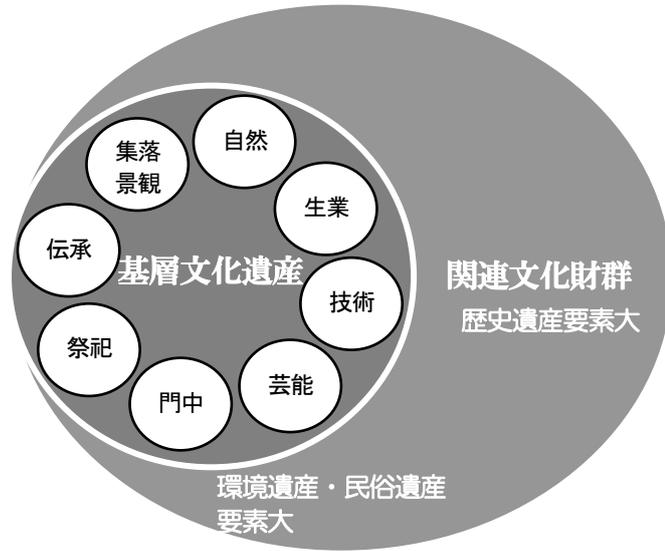


**環境遺産×民俗遺産**  
人々が聖地と崇める場所は特徴的な自然が残り、または人は環境に手を加えることで農業・漁業の技術を育む

**歴史遺産×環境遺産×民俗遺産**  
史実に登場するグスクや御嶽、樋川など3つの要素が詰まった文化財は南城市らしさを最もよく表している

### 3) 地域に共通する文化遺産(関連文化財群を支える基層文化の位置づけ)

本構想・計画における関連文化財群のテーマは、各時代を象徴する「歴史遺産」の要素を特に重視することになるが、南城市では古くから集落(字、かつては「シマ」「ムラ」と呼ぶ)は村落共同体として自治や生業、祭祀・芸能、冠婚葬祭、伝承などの単位であり、集落を基盤に住民生活が営まれてきた。そのため文化遺産、特に環境遺産や民俗遺産の多くが集落またはその周辺に分布している。これらは南城市の歴史文化の基本要素であり、関連文化財群のテーマを支える基層文化に値する。また、地域住民にとってはその一つひとつが自らの人生を振り返る材料であり、祖先とのつながりやコミュニティの絆を深めるものである。



本構想・計画では、関連文化財群のような特筆するテーマはないが、各集落に共通して見出され、市の歴史文化の基盤をなす文化遺産を「基層文化遺産」と呼び、地域住民自らが再発見し価値づけを行うべきものと位置づける。こうした基層文化遺産は従来から地域で受け継がれ管理されてきたものであり、今後もその継承システムを維持していくとともに、必要であれば新たな仕組みを追加して、住民や市民が文化遺産をより身近に感じ慈しむことができるように方向づけていきたい。

繰り返しになるが、関連文化財群に含まれていないからといってその文化遺産が重要でないということではなく、これまでどおり地域の宝として保存・活用を図っていくこと、そして将来的には新たな枠組みで文化遺産のつながりを方向づけることを注釈としておく。

表 基層文化遺産の例

環境遺産	生活基盤に関わる空間要素	集落景観、古民家、石垣、石畳道、石橋、並木・巨木、チンマーサー、御嶽、殿、火神、樋川、井戸、古墓、戦跡 等
	集落の生業に関わる空間要素	農地、漁場、印部石、サーターヤ跡、クムイ、馬場、闘牛場 等
民俗遺産	村落祭祀や先祖崇拜など文化要素	祭祀の数々、門中拝み、門中組織、位牌、祭具、祭祀歌謡、村芝居、舞踊、綱引き、ハーリー 等
	語りによって受け継がれる文化要素	神話・民話、口承文芸、祭りの由来伝承、戦争体験、方言 等
	生活や生業から生まれた伝統的技術	伝統料理、民具、織物、工芸品 等

## (2) 南城市の関連文化財群の位置づけ

南城市の関連文化財群のテーマを位置づける。これらは、市の歴史文化の特性である「琉球発祥の地・南城」を象徴的に示したテーマに連なるものとする。

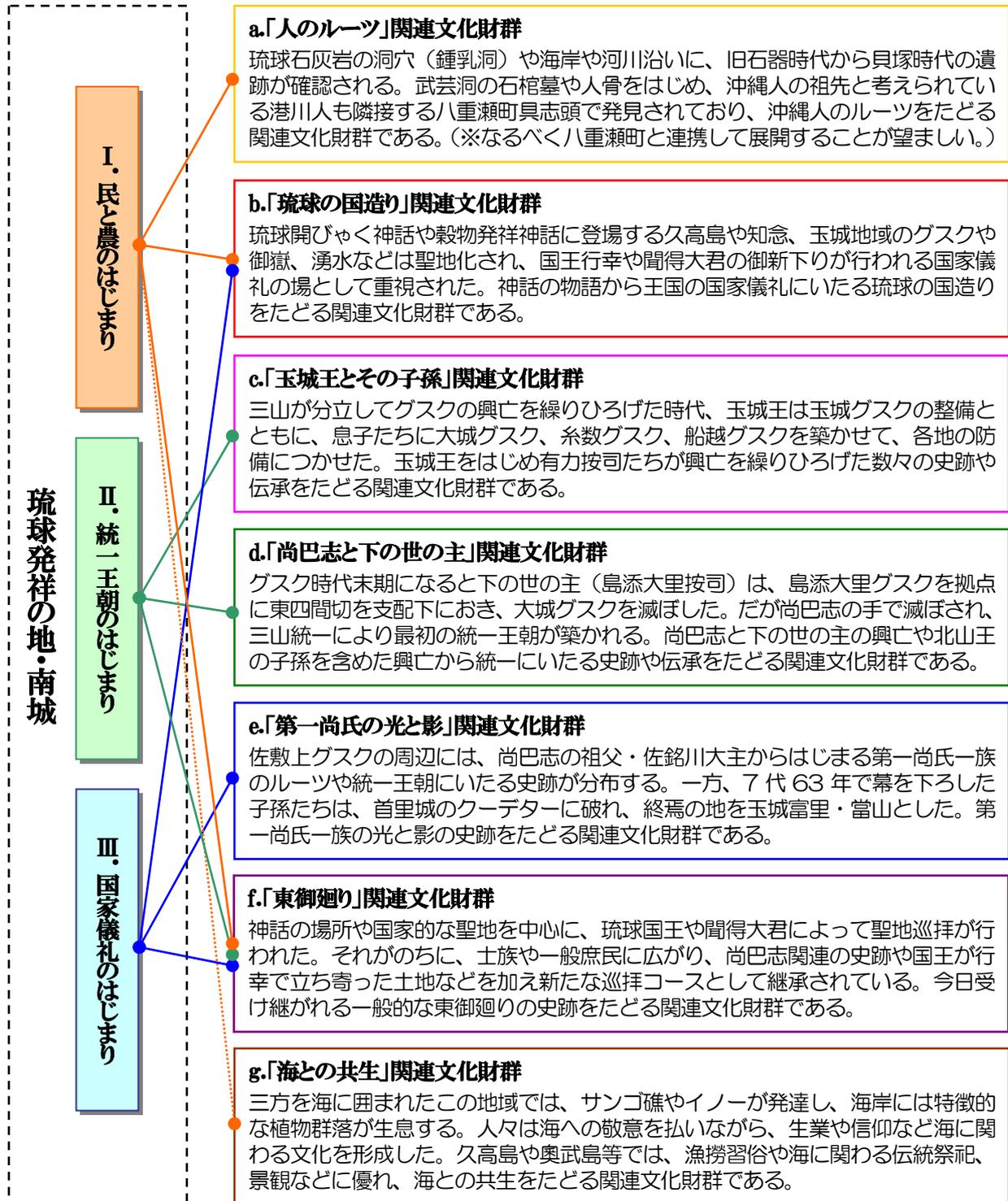


図 南城市の関連文化財群の分布

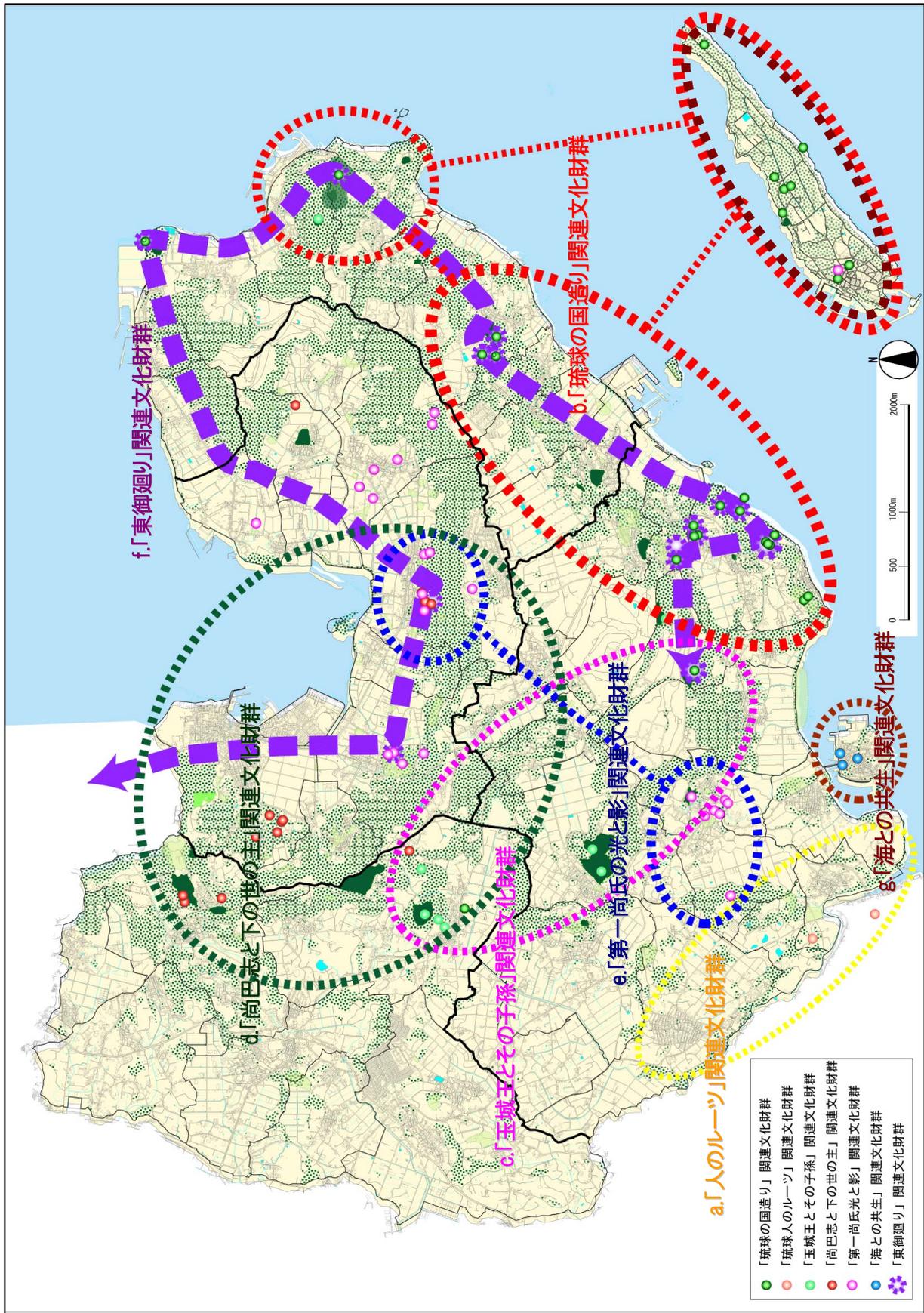


表 各関連文化財群の資源

名称	概要	歴史遺産	環境遺産	民俗遺産
a.「人のルーツ」 関連文化財群	旧石器から貝塚時代の遺跡が分布する	玉泉洞(武芸洞)/前川鹿化石出土地	琉球石灰岩地形/洞穴/森林/湧水	—
b.「琉球の国造り」 関連文化財群	琉球開びやく神話や穀物発祥神話に由来し、琉球の国家儀礼の地となった神話・国家儀礼が見出される	藪薩の浦原(浜川御嶽・受水・走水)/ミントングスク/知念グスク/斎場御嶽/久高島	琉球石灰岩地形/海岸地形/海岸植物群落/御嶽/グスク/森林/湧水	ニライカナイ信仰/東御廻り/稲作発祥に由来する祭祀や芸能(親田御願・稲摺節)
c.「玉城王とその子孫」 関連文化財群	玉城王とその子孫が建立したグスクがあり、グスク興亡の歴史が伝わる	玉城グスク/糸数グスク/船越グスク/大城グスク/按司墓	琉球石灰岩地形/御嶽/グスク/森林/湧水	東御廻り/グスク拝み/集落祭祀/伝統芸能
d.「尚巴志と下の世の主」 関連文化財群	大城按司を滅ぼした島添大里按司(下の世の主)が大拠点を築いたのち、尚巴志が三山を統一する史実のゆかりの文化遺産が分布する	大城グスク/島添大里グスク/佐敷上グスク/馬天港/喜屋武久殿/外間殿/大松堂之殿/按司墓	琉球石灰岩地形/海岸地形/良好な港/森林/湧水/御嶽/小型グスク/殿	東御廻り/グスク拝み/集落祭祀/伝統芸能
e.「第一尚氏の光と影」 関連文化財群	尚巴志親子に関連する統一王朝のはじまりと、尚巴志の死後、首里を追われて王朝の終焉を迎えた軌跡が確認できる	佐敷上グスク/佐敷ようどれ/苗代大屋の屋敷跡/尚布里の墓/尚泰久の墓/仲栄真グスク	墓/琉球石灰岩地形/御嶽/グスク/森林/湧水/小型グスク	東御廻り/門中拝み/集落祭祀/伝統芸能
f.「東御廻り」 関連文化財群	国家儀礼にもとづき、歴史的要素や拝所、霊地を巡拝する東御廻りとして今日に受け継がれる	場天御嶽/佐敷グスク/テダ御川/斎場御嶽/知念グスク/知念大川/受水・走水/ヤハラヅカサ/浜川御嶽/ミントングスク/玉城グスク	琉球石灰岩地形/海岸地形/海岸植物群落/御嶽/グスク/森林/湧水	東御廻り
g.「海との共生」 関連文化財群	海との共生に関わる民俗や史跡、地形等が見出される	奥武島/久高島	海岸地形/漁港/漁業集落/御嶽/井戸/観音堂	ハーリー/航海安全祈願/漁撈習俗/集落祭祀

### (3) 歴史文化保存活用区域の考え方

#### 1) 歴史文化保存活用区域とは何か

歴史文化保存活用区域は、関連文化財群や個々の文化遺産を核として歴史文化的な空間を創出するための計画区域のことである。単体の文化遺産だけでなく、それを核とした周辺環境を保護するものであり、都市計画法や景観法等の制度を活用しながら、調和のとれた空間整備をめざす区域である。また、文化遺産に対する人々の理解を高め、地域住民やより広い範囲の市民が文化遺産の保存・活用に主体的に関わる仕組みを築き上げ、その仕組みを市域全体に波及させるためのモデル地域としても位置づけられる。

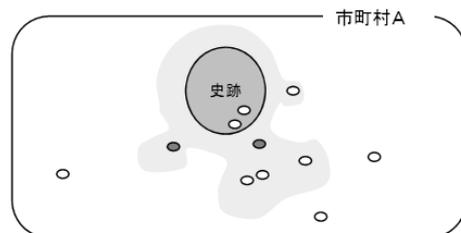
保存活用区域の設定にあたっては、指定文化財のみではなく、無形や動産も含めた関連文化遺産を一定のまとまりとしてとらえる。例えば、史跡を核として関連する文化遺産を一体として保護する例、祭りの行われるまちなみと関連する文化遺産を一体として保護する例、重要伝統的建造物保存地区を核として関連する文化遺産を一体として保護する例などがある。

本構想・計画では、保存活用区域内における保護や整備の方針を位置づけ、次の段階の保存活用計画にて、重要な文化遺産についての具体的な保存活用計画や関係者の役割分担、開発規制の手法などを位置づける。

#### 関連文化財群及び歴史文化保存活用区域の設定例

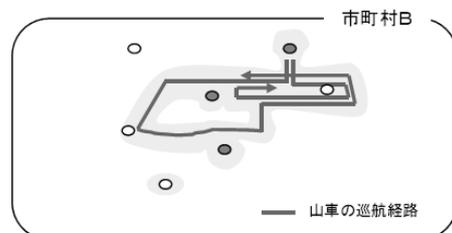
##### 1. 史跡を核として関連する文化財を一体として保護する例

国指定史跡とその周辺にある社寺を一体として保護し、その背景にある山なみを保護する。



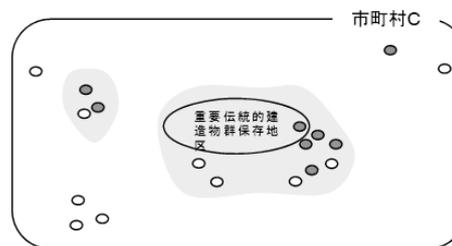
##### 2. まつりの行われるまちなみと関連する文化財を一体として保護する例

重要無形民俗文化財であるまつりを保護するとともに、関連する社寺と山車が巡行する道筋のまちなみを保護する。



##### 3. 重要伝統的建造物群保存地区を核として関連する文化財を一体として保護する例

重要伝統的建造物群保存地区を核として、その周辺に位置する歴史的建造物や史跡とその周辺の環境を保護する。



● 指定文化財 ○ 未指定文化財 ■ 歴史文化保存活用区域

## 2) 本構想・計画における歴史文化保存活用区域の考え方

### 基本的な考え方① テーマの共有性と関連文化遺産の分布に注目して範囲を定める

歴史遺産、環境遺産、民俗遺産それぞれの関連文化遺産に共通するテーマを見出し、そのテーマに沿った面的な広がりや保存活用区域として設定する必要がある。よって、関連文化財群の共有テーマがすなわちその保存活用区域のテーマともなり、指定文化財等を中心に関連する文化遺産を組み合わせた範囲を保存活用区域と設定して、面的かつ連動的な保存・活用を図っていく。

### 基本的な考え方② 保存活用区域と集落の関係に留意する

保存活用区域は、住民を主体とした文化遺産愛護の取り組みを積極的に推進し、これらの取り組みを市域全体に波及させるためのモデル地域としても位置づけられる。南城市の場合、住民生活の基本的な単位は集落（字）であり、また文化遺産が集中するのも集落域である。文化遺産はこれまでも地域住民によって維持管理されてきており、このコミュニティ・ベースドの仕組みは未来に引き継ぐべく、保存活用区域を設定する際には、近隣にある集落の住民が関わるような範囲を想定する必要がある。また、保存活用区域はハンタ緑地や湧水、石灰岩等の自然環境と融合したものであって、クサティ（抱護）の観念からそれらを拠り所とする集落との近接性・一体性がある程度保たれていることが南城市の特徴になると考えられる。

### 基本的な考え方③ 保存活用区域の範囲自体には厳密性を求めない

保存活用区域は、ハンタ緑地や海岸などの自然環境要素、田畑や海域などの生業基盤を含めた範囲となる可能性がある。そのため、道路や稜線などの境界区分、風致地区などの範囲、文化遺産に関する計画に配慮して設定する。また文化遺産を保存するためのバッファー（緩衝）としての役割もあることから、風致地区の指定状況など参照しながら広めに範囲をとる。ただし、この範囲そのものは法的拘束力を持つわけではなく、保存活用区域が例えば都市計画区域のような諸権利を規制する線引きとなるわけではない。また、後年の保存活用区域の見直し（拡大、縮小等）には柔軟に対応する。

### 基本的な考え方④ 住民発案の保存活用区域があれば追加認定していく

以下に位置づけられる保存活用区域は、南城市が文化財行政を改善していくためのモデルとして事業を進めていく区域である。先行して各種の事業に取り組み、そこで得られたノウハウや知見を他の地域にも広げ、ゆくゆくは市全域に同様の取り組みを敷衍させようと考えている。そのため、「わが地区も保存活用区域にしよう」という地域主体の取り組みがあれば、随時その活動を支援し、新たな区域として認定していく考えである。

## (4) 南城市の歴史文化保存活用区域の位置づけ

南城市の歴史文化保存活用区域を位置づける。基本的に上記のテーマにしたがった関連文化財群が集中して分布する区域が対象となる。

表 本構想・計画で定める歴史文化保存活用区域

区域名	関連文化財群	範囲	分布資源の概要
①佐敷上グスク・場天御嶽周辺保存活用区域	「尚巴志と下の世の主」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群／「第一尚氏の光と影」関連文化財群	字佐敷周辺	思紹・尚巴志親子の居城。集落内及び周辺には尚巴志はじめ第一尚氏ゆかりの資源が豊富である。グスクと関わりのある拝所や湧泉がある。尚巴志の三山統一に関する歴史・環境要素に加え、東御廻りなどの民俗要素も構成された地域として設定する。
②津波古の伝統芸能保存活用区域	「尚巴志と下の世の主」関連文化財群	字津波古周辺	伝統芸能が盛んな南城市でも特に熱心な地域であり、棒術(市指定)、天人(市指定)、獅子舞などが有名。津波古棒術保存会など住民の組織体制がしっかりしており、今後のまちづくり活動への発展が期待できる。歴史要素と民俗要素が特徴的な地域として設定する。
③島添大里グスク周辺保存活用区域	「尚巴志と下の世の主」関連文化財群	字西原周辺	島添大里按司の居城。下之世主と称して東四間切を領有し、汪英紫として中国貿易も行った。15世紀初期、尚巴志に滅ぼされる。チチンガー、島添大里按司の墓、王妃ウミナイ御墓などがある。グスク興亡を象徴する歴史・環境要素の重なる地域として設定する。
④大城グスク周辺保存活用区域	「尚巴志と下の世の主」関連文化財群／「玉城王とその子孫」関連文化財群	字大城周辺	大城集落の北側の山の上に築かれたグスク。玉城王の次男が大城グスクを築いたという伝承がある。大城按司真武は麻姓の始祖とされる。島添大里按司によって滅ぼされる。グスク興亡を象徴する歴史・環境要素に加え、芸能による民俗要素が重なる地域として設定する。
⑤テダ御川・知名グスク周辺保存活用区域	「東御廻り」関連文化財群／「琉球の国造り」関連文化財群	字知名周辺	テダ御川は太陽神が降臨したとされる聖地で、久高島参詣の際に礼拝され(ウビナディ)、それが東御廻りに引き継がれた。知名グスクはその近くの丘陵で、遺構がみられず、原型をうかがい知ることができない。知念按司となる内間大親が居を構えていたといわれる。
⑥斎場御嶽周辺保存活用区域	「琉球の国造り」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群	字久手堅周辺	琉球王国最高の聖地とされ、間得大君の就任儀礼が行われた場所である。内部は、巨大な2つの石で構成される三庫裏、大庫理、久高遥拝所などからなる。琉球開びやく神話等の歴史・環境要素に加え、東御廻りなどの民俗要素が特徴的な地域として設定する。
⑦知念グスク周辺保存活用区域	「琉球の国造り」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群	字知念周辺	知念グスクは古グスクと新グスクからなるグスク時代前期のグスク。後代はグスク内に番所が置かれた。知念大川やウカハルを含めアマミキヨの神話に由来している。琉球開びやく神話等の歴史・環境要素に加え、東御廻りなどの民俗要素が特徴的な地域として設定する。
⑧久高島の拝所と祭祀保存活用区域	「琉球の国造り」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群／「海との共生」関連文化財群	久高島全域	独自の祭祀行事と御嶽空間が残された島。アマミキヨが降臨した地とされ、穀物起源神話が伝承されている。久高島の漁撈習俗が国指定、クボー御嶽が市指定である。琉球開びやく神話等の歴史・環境要素に加え、「拝み」による民俗要素が特徴的な地域として設定する。
⑨藪薩の浦原周辺保存活用区域	「琉球の国造り」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群	字百名周辺	ヤブサツ御嶽、ヤハラヅカサ、浜川御嶽など聖域空間、受水・走水、御穂田など神話由来の地、垣花樋川、仲村渠樋川など井泉などからなる。琉球開びやく神話等の歴史・環境要素に加え、東御廻りの民俗要素が特徴的な地域として設定する。

区域名	関連文化財群	範囲	分布資源の概要
⑩ミントングスク・玉城グスク周辺 保存活用区域	「琉球の国造り」関連文化財群／「東御廻り」関連文化財群	字仲村渠・垣花周辺	ミントングスク、玉城グスク、垣花城跡などのグスク資源などからなる。琉球開びやく神話等の歴史・環境要素に加え、東御廻りの民俗要素が特徴的な地域として設定する。
⑪第一尚氏王統保存活用区域	「第一尚氏の光と影」関連文化財群	字富里・當山周辺	尚円の国王就任により離散をよぎなくされた第一尚氏王統の遺族のうち、尚泰久一族は当地に安置されている。當山には尚布里の墓がある。南城市の歴史事象の広がりを象徴する地域として設定する。
⑫奥武島保存活用区域	「海との共生」関連文化財群	奥武島全域	航海安全を祈願する観音堂をはじめ、海に関する伝統祭祀や生業、景観がある。南城市の人々が海との関わりで育んできた民俗・環境要素の重なる地域として設定する。
⑬糸数グスク周辺 保存活用区域	「玉城王とその子孫」関連文化財群	字糸数周辺	玉城按司の三男・糸数按司が築城したと伝わる。南山王にくみする玉城城の出城として中山に対峙し、上間按司に襲われて落城した。各按司に由来する史跡の他、アブチラガマなど戦跡もある。グスク興亡を象徴する歴史・環境要素の重なる地域として設定する。

図 歴史文化保存活用区域の範囲

